

## 一般社団法人 日本画像学会 第 69 回定期総会議事録

日時： 2026 年 6 月 10 日（水） 11 時 10 分～12 時 00 分

場所： 東京科学大学すずかけホール／Zoom オンライン会議

出席： ・社員（委任状による者を含む）： 313 名

- ・役員 会長 藤井 雅彦
- 副会長 前田 秀一、木崎 宏恵
- 理事 矢口 博之、飯野 裕明、吉田 崇裕、加川 哲哉、  
小山 明紀、木内 豊、中村 一希、中井 洋志、  
常安 翔太、高村 真澄、田之上 剛、澤井 正幸、  
垣内 徹（記録）
- 監事 東嶋 健太、服部 好弘
- 幹事 朝武 敦、宮本 栄一、峯岸なつ子
- ・顧問 平倉 浩治、高橋 恭介、面谷 信
- ・事務局 中山 信行
- ・評議員 村井 宏亘
- ・主査・委員ほか 西 眞一、江口 裕俊、原田 祥宏、石川 博幸、  
福島 直樹、関口 恭裕、田中 裕幸、平野 政徳、  
万袋 麻希子、中村 幸晃、村社 純一、加藤 知之

### <議事>

#### 1. 開会の辞（小山運営委員）

- ・定刻になったので只今から第 69 回定時総会を開催する。

#### 2. 会長挨拶（藤井会長）

会長職は 2 年務めたが、もう 2 年務めさせていただく。学会活動についての議論の機会はありませんので活発に議論お願いしたい。

会長方針は 5 つで 2 年前と変わりはない。まだまだ、取り組まなければならないもの、取り組みを定量的に評価できていないところなどがある。会長方針には明示していないが、重点項目として「学会と AI との関り検討」を含めている。それを含め役員研修会で学会活動の取り組みを決め、様々なイベント等を進めている。成果が出ているところもあるので、しかるべき機会に紹介したい。

「境界保全型共創」を学会の目指す姿として位置付けたい。学会には営業機密を持った人が集まっている。その機密を保持しながら、立ち向かわなければいけない先行き大変なところで、共通の課題や進め方、技術についての方針を皆で議論し、より強くする形の場としてこの言葉を広め、やるべき事として進めていきたい。

学会状況については、心苦しいが会員減少傾向にある。昨年度持ち直しの傾向もみられたが右下がりの状況が続いている。会長方針に挙げた内容に取り組む事が、会員増につながると考えている。維持会員の口数も減ってきている。大きな問題としてとらえている。退会理由は今の業界を物語っており、各社の事業領域変化、撤退、再編など。しかし、画像技術を用いているのはプリンタだけでないことは皆理解している。プロダクションや材料メーカーもリストアップし、維持会員加入を働きかけている。少しずつ成果に結びついているが、現状はそれ以上に退会されるところが多い。今年の春に 15 社リストアップ実施し、この夏も新たな企業をリストアップして進めていく。非常に厳しい状況が続いているが、画像技術の価値がなくなっているわけではなく、生み出していると考えている。

### 3. 定足数の確認・報告・議長選出（小山運営委員）

#### ① 定足数確認・報告

- ・定款第 13 条において総会成立は会員の過半数の出席が要件になっている。現在の会員数は 566 名であり、定足数は 284 名となる。
- ・出席者は、既議決者数 23+委任者数 245+本日の出席者 45 = 合計 313 名である。  
本総会の出席者数は定足数を十分満たしており、定時総会が成立する。

#### ② 議長選出

- ・定款第 15 条により総会議長は会員の中から選出することになっている。
- ・小山運営委員より本日の参加者から議長を募ったが希望者は無し。よって本学会の藤井会長を議長に推薦した。

### 賛成多数で承認された

### 4. 第 1 号議案：2026 年度役員案【審議・承認】（小山運営委員）

- ・役員承認(総会資料参照)

2026 年度改選候補(任期:2026 年 6 月-2028 年 6 月まで)

理事候補 15 名、監事候補 1 名

非改選役員

理事 11 名、監事 1 名

役員/役員候補総数: 28 名 (理事/理事候補 26 名、監事/監事候補 2 名),

内新任 3 名留任 23 名

- ・その他、退任役員、幹事、顧問の紹介

2025 年度で退任、あるいは 2026 年度総会をもって退任される理事・幹事・監事 6 名

2026 年度幹事・監事 4 名、顧問 11 名

・藤井会長から質疑を募ったが無し。

\*第1号議案の審議結果

**2026年度役員案について、賛成多数で承認された**

(事前投票: 賛成 22 票、反対 1 票、議長/その他会員委任 245 票)

**5. 第2号議案: 2025年度事業報告【審議・承認】(小山運営委員)**

事業報告詳細は総会資料を参照いただく形とする。主な5委員会について、スライドにて5委員会の委員長を代行して小山運営委員から報告。

(1) 編集委員会(宮本幹事) 小山運営委員代行

委員会活動年6回実施、学会誌年6回発行、フリートーキング等で会員間の議論を深めた。

① 委員会組織・活動

編集委員会6回開催、特集企画会議開催。

学会誌企画・編集、校正、各種WG。

② 学会誌

年6冊定時発行。Special Topics(12月号)として、「Printed Flexible Electronics and Devices」英文解説3報論文3報を掲載。

③ その他活動

第45回フリートーキング開催(26/1/19)。

ICJ2025 ImagingToday 特別セッション。

編集委員長賞選考・表彰。

IF(impact factor)取得申請・審査中。

(2) 技術委員会(前田理事) 小山運営委員代行

対面オンラインのハイブリッド開催や他学会との連携等、多様な参加機会を提供した。

① 体制

委員長:前田秀一、副委員長:飯野裕明、宮戸健志

② 部会

リアル開催を意識したハイブリッド研究会の開催。他学境界との共同開催(日本機械学会IIP等)。

③ 討議・交流

主査会議、総会(2026/1/23)開催。

④ 複写機遺産

第5回複写機遺産認定活動。

⑤ 技術研究会

トナー技術研究会(5/16)、電子ペーパー/フレキシブル部会(11/13)、電子写真技術部会(2/6)、MBD部会(3/2)、インクジェット部会(3/6)等5回開催、(一昨年度は2回、昨年度は4回の開催)。

⑥ 技術講習会・シンポジウム

ICJ2025(東京科学大)オーガナイズドセッション企画、第89回技術講習会、関東シンポジウム、感性部会-視覚学会コラボ、インクジェット技術交流会等。

(3) 企画委員会(中井理事) 小山運営委員代行

イメージング NEXT を中心に多様な場を作った。AI のテーマを掲げて活発な議論を行った。

① イメージング NEXT

前企画イメージングカフェのコンセプトは活かしつつ時代に即した新企画として昨年度スタート。2025/4~2026/3 期間で計3回(累積4回)開催。インタビュー形式の講演・新価値創出ワークショップ・研究室訪問など。

② 2025 年度関東シンポジウム

「Imaging Next Generation: 技術の蓄積と AI 共創の未来」~「歩み」を知り、「価値」の加速へ~と題し、12/11 に開催。核技術部会による一年の振り返りに加え、生成 AI を実践的に使いこなし画像技術の将来につなげるワークショップを実施。参加者 38 名(会員 35 名/非会員 3 名) うち現地 22 名。

(4) コンファレンス委員会(吉田理事) 小山運営委員代行

ICJ2025 は現地とオンラインのハイブリッド開催。講演は目標の 70 に達したが、参加は目標を下回った。

① 2025 年 年次大会 (ICJ2025)

[日本画像学会研究討論会(第 135 回):日本画像学会年次大会]

- ・開催日: 2025/6/11(水)~13(金)
- ・会場:東京工業大学 すずかけ台キャンパス&Zoom ハイブリッド
- ・スローガン: 画像価値多様化への挑戦-来て・見て・語れ、つながりが開く画像技術の未来-
- ・公演数 70 件: 目標の 70 件達成。
- ・参加者 255 名: 目標の 300 名を大きく下回る。ICJ2024 の 293 名から 13%減。
- ・展示会 9 社: 昨年に引き続きの施策に加え、スタンプラリーを初実施。

(5) 事業委員会(田之上理事) 小山運営委員代行

技術講習会は参加人数が大幅増。新人教育や実務に役立つ視点で準備した。

① 第 89 回技術講習会「画像技術の基礎と将来」

日時:2025 年 6 月 30 日～7 月 4 日

ハイブリッド開催: ユニコムプラザさがみはら+Zoom 配信

参加者数: 96 名(昨年実績 71 名から大幅増)

<トピックス>

- ・新人教育としての活用が定着。
- ・満足度 90%超を維持。
- ・会場参加への回帰。

② 秋・技術講習会「チュートリアル 2025」

テーマ: 「良い商品・サービスとは何か? その価値を生み出す・届ける・活かす」

日時: 2025 年 12 月 3 日

形式: 会場参加のみ

プログラム: 「価値を生み出す・届ける・活かす」を総合的に学び、考え、ディスカッションする構成。

受講者の声: 単なるスキルの習得に留まらず、新規事業や未踏分野へ挑戦するための「思考の軸」が得られたと高評価。

- ・第 2 号議案について藤井会長から質疑を募ったが無し。

\*第 2 号議案の審議結果

**2025 年度事業報告について、賛成多数で承認された**

(事前投票: 賛成 23 票、反対 0 票、議長/その他会員委任 245 票)

**6. 第 3 号議案: 2025 年度決算案・監査結果【審議・承認】(加川理事、東島監事)**

(1)2025 年度決算報告

1. 収支概要

- ・2025 年通期事業活動収支は 85 万円の赤字決算。  
(対予算-85 万円、対前年+50 万円)

2. 事業活動収入詳細

- ・2025 年度の事業活動収入は 3380 万円。  
(対予算+662 万円、対前年+532 万円)  
プラス要因は標準チャート販売増、講習会参加増で、会員数減であるが収入は増加。

### 3. 事業活動支出詳細

- ・ 2025 年度の事業活動支出は 3465 万円。  
(対予算+747 万円、対前年+482 万円)  
増加要因は、学会誌の紙種を良質なものに変更、学会賞を手厚くしたこと等。

収入増、支出増、対予算-85 万円で実績決算とした。

### (2)2025 年度監事監査報告

#### ①監査方法の概要

- ・ 監事は、理事会や重要な会議に出席するほか、日本画像学会の関係者から事業の報告を聴取し、重要書類の回付を受け、業務及び財産の状況を調査した。日本画像学会の関係者および財務委員会から報告及び説明を受け、監査委員会を実施し、決算報告書について監査を実施した。

#### ②監査結果

- ・ 業務監査の結果  
学会の業務は、会長方針および施策に基づき、イベントの開催方法や企画・運営の工夫、委員会メンバーの若返りなどが進められており、年度計画及び事業計画は適正に運営施行されていることを確認した。
  - ・ 会計監査の結果  
2026 年 4 月 27 日に web 会議で実施。加川財務委員長より説明があった、2025 年度日本画像学会決算報告書は、当日指摘された記載不備が適切に修正された結果、必要な事項を正しく示していると認める。
- ・ 第 3 号議案について質疑を募ったが無し。

#### \*第 3 号議案の審議結果

##### 2025 年度財務報告について、賛成多数で承認された

(事前投票: 賛成 23 票、反対 0 票、議長/その他会員委任 245 票)

### 7. 第 4 号議案：2026 年度事業計画/財務計画/年間予定【報告】

(小山運営委員代読/加川理事)

#### ■2026 年度事業計画(小山運営委員)

- ・ 第 2 号議案の 2025 年度事業報告同様、主要 5 委員会の 2026 年度の活動について小山委員が代表して報告。
- ・ 学会の体制図、常設委員会組織図、技術委員会/技術部会組織図を示し主に変更箇所を中心に説明した。今年から、デジタルファブ리케이션技術研究会が復活した。

## (1)編集委員会

### ① 委員会組織・活動

#### ・編集委員会

定期委員会開催(年6回)、学会誌編集、校正、特集企画会議開催。

#### ・査読体制の強化の継続

技術・学術面と、体裁・要件を審査する2名査読者体制継続。

#### ・研修会課題 AI と学会・画像技術の取り組み

AI 関連テーマでの IT 特集の企画、体裁査読効率化の検討。

#### ・学会内他組織との連携

ICJ 実行委員会との連携継続。

### ② 学会誌

#### ・年6冊の定時発行

ICJ 発表からの論文勧誘の促進継続等。

### ③ IF(impact factor)取得

#### ・ESIC(Emerging Sources Citation Index)へ掲載、

Clarivate 社への初回トリアージ完了。

### ④ その他活動

#### ・フリートーク開催。

#### ・ICJ 編集委員長賞、学会誌論文賞。

## (2)技術委員会

### ① 部会の開催(特に対面開催)を増やす取り組み

### ② 技術交流会の促進

### ③ 他学会/組織とのコラボ企画継続(日本機械学会 IIP、日本視覚学会等)

### ④ ICJ2026 オーガナイズドセッション(部会企画)開催

### ⑤ 活動予定

・主査会議、技術委員会総会の開催。

・他学会/組織とのコラボ企画。

・技術講習会(春/秋)、関東/関西シンポジウムへの協力。

・第6回複写機遺産認定事業。

・デジタルファブ리케이션部会の再始動。

## (3)コンファレンス委員会

### ①2026年 年次大会 (ICJ2026)

本日開催。講演52件、有料参加者230名。

開催日: 2026年6月10日(水)~12日(金) (ハイブリッド形式)

会場: 東京科学大学 すすかけ台キャンパス

- ・若手参加促進を重要テーマとして、参加費割引、グループ割を新設し、若手が参加しやすい環境を構築。
- ・キーノート講演「世の中を変えたQRコードの原点と成長」  
デンソーウェーブ(株) 原 昌宏 様
- ・来て、見て、語る、特別企画  
ショーケース「インクジェットヘッド」  
ワークショップ「若い力のつながりで拓く！画像技術者の未来座談会」

#### (4)企画委員会

##### ① イメージング NEXT

- ・1回/2~3か月のペースで開催予定。
- ・講義形式/対談形式/ワークショップ形式/研究室からの配信など、現地とオンラインなど様々な形態にて実施していく。

##### ② ICJ2026 特別企画の運営

- ・ワークショップ「若い力のつながりで拓く！画像技術者の未来座談会」。

##### ③ 2026年度シンポジウムの企画運営

- ・各技術部会による一年間の振り返りと、近年の技術トピック紹介を主とした内容で12月に開催予定。

#### (5)事業委員会

##### ① 第90回技術講習会 2026年7月6日 ~ 7月10日

- ・ハイブリッド開催(リアル会場は「ユニコムプラザさがみはら」)。

##### ② 秋・技術講習会「チュートリアル2026」

- チュートリアル2025をベースに、2026年秋に開催予定。

#### ■2026年度財務計画(加川財務委員長)

##### (1) 2026年度予算編成の考え方

- ・2025年度実績見込みをベースとして一時的な要因と思われる収支増減を調整。
- ・事業活動収入の部では、講習会参加費の2025年度実績が予算より120万円増えており2026年度予算にも反映させた。試験標準品頒布収入の2025年度実績は一時的な増収と判断して例年ベースとした。維持会員の会費収入は近年の漸減傾向を反映した。
- ・事業支出の部でも試験標準品作成費は例年ベース。会誌発行費、検討・研究会費支出は物価上昇の傾向を踏まえ実績ベースとした。

・以上を盛り込み、2025年度は収入額を2,812万円、支出額を3,054万円とした収支差額-242万円の赤字予算編成とする。

(2) 2026年度予算案

2026年度の予算案は-242万円の赤字予算とした。

(3) 事業収入

2026年度予算は2025年度末見込みベースで会費収入は微減、試験標準品頒布収入を例年に戻した。収入推移として昨年度より減額。

(4) 事業支出

2025年度末見込みをベースに試験標準品作成費を例年に戻した。支出推移として昨年度より抑制している。

第4号議案について承認事項は無いので、決裁は無し。

第4号議案について質疑を募ったが無し。

今年度も赤字予算を組んでいる。良くは無いが幸いにも破綻する状況ではない。

もちろん黒字にしていきたいが、新しい会員獲得、領域を広げるためにしばらくは投資する。

(藤井会長)

## 8. 質疑応答 (藤井会長)

藤井会長より学会活動、議案について質問を募った。

質問: 学会は何十年も活動して来ており様々な蓄積がある。学会の持っている過去の情報はパブリックなものばかりでない。そのようなものをAIで検索できるようにするなど、過去の資産を利用し、教育や戦略材料等に使える工夫を行っていただければと思う。

回答: そのご意見はおっしゃる通りでその活動は今始まっている。著作権等の問題はあるが、論文、解説記事をAIに学習させる開発は進めている。一回で完成は難しいが、コンセプト検証を今年中に行いたいと思っている。公開範囲や課題を解決しながら本格導入していきたい。今年度はPOC公開していきたい。

コメント: そう言うことであれば、事業計画の中に一言記載いただけるとよいと思う。

## 9. 閉会の辞 (藤井会長)

2026年度日本画像学会総会を終了します。

2026年6月10日

一般社団法人日本画像学会 2026年度総会議事録

総会議長 藤井 雅彦 印

議事録署名人 矢口 博之 印

議事録作成者 中山 信行 印